



認知症と老化による物忘れは、どのような違いがありますか。



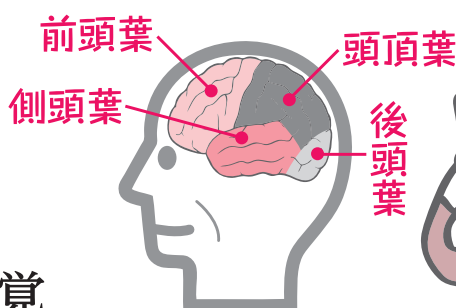
脳の記憶する仕組みは、まず側頭

葉にある海馬に一時的に記憶され、情報が多くなると脳のそれ

ぞれの部位にハードディスクのように固定して残されます。この記憶を取り出したり、記憶のための注意力や集中力を生み出すのが前頭葉です。アルツハイマー型認知症では、海馬が初期からダメージを受けるために

新しい記憶が残らないのですが、ダメージが少ない脳の他の部位の古い記憶は保たれています。一方、老化は前頭葉から側頭葉と徐々に機能低下が始まります。特に前頭葉の機能低下により記憶を取り出す能力が低下するため思い出せなくなり、記憶量が多

いと余計にそうなりますが、ヒントで思い出すこともあります。また、注意力、集中力の低下からうっかりミスも増えてきます。つまり、認知症は朝食を食べたことを覚えていないが、老化では朝食の内容を忘れるのです。忘れないよう特に注意しても、



出すこともあります。また、注意力、集中力の低下からうっかりミスも増えてきます。つまり、認知症は朝食を食べたことを覚えていないが、老化では朝食の内容を忘れるのです。忘れないよう特に注意しても、

忘れていることが多くなると単なる老化でない可能性もあります。早めなら回復も可能です。ですので、忘れないうちに対策を。今年も、清く正しく、いや、記憶正しく生きたいですね。

朝倉病院 理事長／院長 田辺 裕久さん